

2024年11月20日(水) マリヤ会

新聖歌 474番 (これは家庭集会で父がよく歌っていた子供賛美歌です。)

山上の説教の3回目です。山上の説教はマタイの福音書とルカの福音書にその併行記事があります。マタイの5章6章7章が詳しく書かれています。

イエス様は弟子たち、群衆を前にどのくらいの時間語られたのでしょうか?と想像してみました。

普通、人の話す言葉は、10分間に2000字から2500字とされています。早口の人で3000字から3500字でしょう。

マタイの5章6章7章の字数はざっと8000字弱ですから、イエス様は「空の鳥を見なさい」とか「野の花を見なさい」とたとえを入れながら話しておられますので、そんなに早くはなかったでしょう。約30分から40分くらいではなかったかなと想像してみました。

今日は7章の13節-14節から学んでいきたいと思えます。

13『狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いのです。』14『いのちに至る門はなんと狭く、その道もなんと細いことでしょう。そして、それを見出す者はわずかです。』

私は、高校3年の受験生の時に、私と同年のはとこに出した年賀状に『狭い門から入りなさい。』(聖書)と書いて出しました。そのはとこから「ありがとう。がんばります」と言って返事が返ってきました。

そのはとこは、北大にみごと合格しました。私は現役の時、受験に失敗しました。その後紆余曲折を経ましたが、33歳で私は救いの恵みに与りました。

ここで言われる狭い門は、もちろん『天国への門』です。『いのちに至る門はなんと狭く、その道はなんと細いことでしょう。それを見出す者はわずかです。』

私たちが救いに導かれた経緯は様々だと思えます。ある方は、この柏原教会の『神は愛なり』という壁に書かれた御言葉に導かれて、ある人は病を通して、色々な困難に直面して、両親に誘われて幼い頃から日曜学校に通って、また、友人・知人の誘いを受けて等々、神様の導きは一人一人違うでしょう。だから一人一人の「証」に感動があるのです。

ヨハネの福音書の15章16節には『あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして立てた』とイエス様は言われています。

私自身の経験から言っても、あの1980年秋の後楽園球場でのビリーグラハム大会に招いて下さったのは神様であり、その後のご計画も神様が用意して下さいましたから、今があるのだとはっきりと言えます。

ところで、私たちの最終ゴールの天国への狭い門に入るにはどうすればいいのでしょうか?

ヨハネの福音書14章6節には『私が道であり、真理であり、いのちなのです。わたしに

よらなければ父のみもとにいくことはできません。』とイエス様は言われています。

『わたしによる』ためにどうすればいいのでしょうか？

21節をご覧ください。『わたしに向かって「主よ、主よ」という者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです』と言われています。そして22節では『その日には多くの者がわたしに言うでしょう。「主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか。」それに対して

23節『しかし、わたしはそのとき、彼らにはっきりと言います。「わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち、わたしから離れて行け」と言われています。

神様の喜ばれることは5章の八福の一番目にあるように『心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです』と、己を無にした主の前に悔いし砕けた魂です。

24節に『わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます』と言われています。

『主よ、主よ』と唱えるだけでは砂上の楼閣であります。見た目は立派で美しく見えますが、嵐や洪水で倒れます。しかも27節にあるように、『しかも倒れ方もひどいものでした』ということになります。

ヘブル12章2節に『信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。』と言われています。

今、時代は先行き不透明で混迷を深めています。何を見ていいのわからない。情報もテレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネット、SNS等々から氾濫しています。

私は2年間勸士の学びをさせていただきました。最後にスクーリングで関西聖書神学校に泊まる機会が与えられました。部屋にはラジオもテレビもありません。夜の講義が終わり、9時頃でしたか、部屋に戻りますと、窓からは塩屋の暗い海が見えましたが、音はどこからも聞こえてきません。日頃私はいかに騒々しい世界に生きているのか、を痛感しました。逆にあまりの静けさでなかなか眠れませんでした。

神学生はこのような中で3年、4年間、神様と1対1で向かい合って塩屋の山を下りて来られるんだ、と実感しました。

『静まって私こそ神であることを知れ』と言われる方、『信仰の創始者であり、完成者であるイエス様から目を離さない』で、狭い門を目指して走り抜かせていただきますよう。

古今東西、どんな宗教家も哲学者も歴史家も指導者も、過去も現在も未来においても、『私が道であり、真理であり、いのちなのです。わたしによらなければ父のみもとにいくことはできません。』と言われたのはイエス様以外にはおられません。

このみことばを家族に、友人・知人、地域の方々に伝えて行く者とさせていただきますよう。